

会 議 録		令和 5 年12月15日作成	令和 9 年 3 月末日廃棄
会議名	京都府西京警察署協議会（令和 5 年度第 3 回）		
開催日	令和 5 年12月 7 日（木曜日）		
時 間	午後 3 時から午後 4 時40分までの間（ 100分）		
場 所	京都府西京警察署 講堂		
出席者	澤井会長、中川副会長、大石副会長、辻委員、中路委員、高橋委員 樋口委員、石若委員、小原委員、柳田委員、池藤委員 （欠席 木場委員、野原委員） 計11人		
	署長、副署長、警務課長、生活安全課長、地域課長 刑事課長 交通課長 警備課長 会計課長 広聴相談係長 計10人		
諮 問 事 項	高齢ドライバーに対する交通安全教育について		
会 議 内 容	<p>1 会長挨拶 司会 副署長</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>3 警察署幹部自己紹介（小籾会計課長）</p> <p>4 報告事項 警察署協議会会長会議出席結果～大石副会長</p> <p>5 協議 司会 会長 諮問事項説明 高齢ドライバーに対する交通安全教育について～交通課長</p> <p>※ 説明後、署庭において各委員に新交通安全教育車による運転体験及び歩行シミュレーターによる歩道通行体験を実施</p> <p>【委員】 来年には後期高齢者となり、75歳になれば運転免許証を更新する際は認知症のテストを受けなければならないと承知している。</p> <p>しかし、自分自身で能力が劣ってきているという認識はなく、例えば80歳まで乗りたいという思いがあると、家族から返納を勧められても踏み切れない現状があるのではと思う。</p> <p>今回、高齢者の事故の実態を説明していただき、自分の命よりも人様の命、相手方の家族のことを考えるという認識を深める必要がある</p>		

と感じた。

現在私はミッションの軽トラックを運転しているので、アクセルとブレーキの踏み間違いはしないと思っている。

【委員】私は来年77歳になるため、家族が心配して私が車を運転するときは、常に妻が横に乗っている。

信号機や左右の確認、高速道路での走行等注意して運転しているが、なかなかうまく運転できていないという自覚もある。私も80歳までは車の運転をしたいという気持ちがあるが、そろそろ免許を返納しなければいけないという気持ちもある。

そうは言っても、今、住んでいる地域はタクシーを呼んですぐ来てくれず、バスも便数が減る状況となると、車を必要とせざるを得ない状況にある。最近では孫が免許を取ったことから、あてにできるようであれば免許を返納しても良いと考えている。

【委員】信号のない横断歩道を渡るという想定を体験したが、足の力が弱まっており、走って横断しなければならない状況も発生するので、特に高齢者は普段から足の筋力を鍛えておく必要があると感じた。

社会福祉協議会でも高齢者向けの筋トレを実施しているが、高齢者の方に信号のある横断歩道の利用と合わせ、足の筋トレの必要性も伝えていきたいと考えている。

私自身ももう少しで高齢者講習の対象となり、御近所の高齢の方にできる限り運転免許証を返納してはどうかと言いたいが、今住んでいる嵐山地区は、区役所に行くにしても直通のバスがなく、病院に行くにしてもタクシーの予約がなかなかとれない状況だと聞いている。

公共交通機関の整備等の環境が整えば、高齢者の運転免許証の返納は促進されるのではと考える。

【委員】免許証を保有していないので、車で事故を起こすことはないが、電動の自転車を使用しているので気を付けなければいけないと考えている。横断歩道の横断も足腰を鍛えてスムーズに渡れるよう努力をしたいと思う。

【委員】私も運転免許証の返納を検討しなければならない年齢に達しているが、車は生活をしていく上で必要不可欠であるとも考えている。

認知症検査に行っても危ないなと感じる方をお見受けすることがあるので、検査を合格する基準がどうなっているのか関心を持っていた。

車の運転に関しては、年齢にかかわらず、人の能力というものが非常に重要だと感じている。最終的には社会全体として考慮していかなければならない問題だと考える。

【委員】私も今後いつまで車の運転ができるか分からないが、できるだけ健

会 議
内 容

康でいたいと思っている。

私に関心を持っているのが自動運転の自動車が開発されている点であるが、それが将来どのような形で出てくるのか分からないが、もっと安全で高齢者でも使いやすいものが開発されることを願っている。

【委員】 アクセルとブレーキの踏み間違いの件だが、最近区役所の駐車場で年齢は50歳ぐらいの方であったが、アクセルとブレーキの踏み間違いが原因と考えられる事故が発生した。

この種事故は、年齢に関係なく何らかの原因で発生していることから、自分自身も注意する必要があるという認識が深まった。

近所に90歳近くになって運転されている方がいるため、家族の方と話す機会があれば警察に相談することを助言したいと考えている。

【委員】 先ほど管内で発生した高齢者が運転する車の事故について説明を受けたが、この車には危険を察知するセンサーのような物が備えていなかったのか疑問に感じた。

東京の渋谷で起きた事故に関してはプリウスだったと思うが、最近ではテレビCMで前に壁があれば止まるような映像を目にするので、危険を察知するセンサーが付いていたのなら、スピードが出過ぎていたから反応しなかったのか等疑問に思っていた。

最終的には自分で責任を負うことになるため、安全設備をどこまで信じていいのかという感想を持っている。

区役所の職員としての質問だが、地域の各種イベントを企画しているが、今日体験させていただいた交通安全教育車について、高齢者だけでなく多くのお子さんも利用できるような形で来ていただくことは可能なのか。

【警察】 警察や自動車関連団体との連携を強化することにより、自動車の交通安全対策の発展につながることを希望している。

交通安全教育車については、本日も老人福祉施設での高齢者に対する交通安全教育に活用したが、事前にシミュレーションできる車が来ることを広報した上で、多くの方に体験してもらうことを心掛けている。

本日本験していただいて御理解いただけたと思うが、高齢者の方に危険な場面等を体験していただくことを主眼とし、高齢者の方が多く利用する施設で使用することを前提としている。

要請があればイベントに持っていくことは可能であるが、子どもが遊ぶためのものではないので、派遣を依頼されるときは高齢者に対する交通安全教育が目的であることを前提としていただきたい。

【警察】 各警察署からの派遣要請が多々あると聞いているので、地域の会合

会 議
内 容

等で交通安全教育車を要請される際は、駐車スペースなどを確保していただければ皆様からの要望にはできる限り応えさせていただくことから、できるだけ早い要請をお願いしたい。

【委員】交通事故が発生した場合、運転者は気が動転している場合もあると思うが、警察官が運転を替わって道路脇に車を寄せるということはできないのか。

また、中央分離帯の街路樹の清掃等をする作業員を見掛けるが、危ないと感じる状況があるため、危険回避措置等を警察から指導してもらうことは可能か。

【委員】私自身も運転に自信はないが、孫の送り迎えや両親の病院への搬送等で運転免許証をなかなか手放せず、今に至っている。

警察の説明でサポートカーの話が少し出ていたが、ゆっくりバックすると壁などが近づいていても勝手に止まってくれるわけではなく、前進させてしまえば踏み間違えたとしても止まらないという話を車屋さんに聞いたことがある。

自分の経験でもトロトロ運転しているとき、アクセルに足を置いていたが、人などが飛び出してきたとき思わずアクセルを踏みそうになったことがある。自動運転の車の技術がより進んでほしいと思う一方、高齢者が乗るシニアカーに対する教育も今後進めていく必要があるのではと感じている。

【委員】歩行者用のシミュレータ体験をさせていただいたが、一番印象に残ったのは、最初赤い点を見て開始し、そのあとどこに目線が向いていたのかをチェックできたが、高齢者の方にも目線がどちらに向いていたのかということを意識してもらえば、この装置の効果があると思った。

当社は鉄道会社であり、事故は起こさないようにいろいろな対策を行っているが、人間はミスをするものだという発想で対策を講じる必要があるのだと改めて感じた。

会議に出席する前に、西京署管内の国道9号の交通事故の発生状況を確認したところ、交通事故の発生数が減少していた。

おそらく警察で何らかの対策をされていると思うので、当社の業務にも生かしていきたい。

【委員】いたずらの類と思うが、近所の方から、ホームページに危害を加えるといった内容の書き込みをされたという相談を受けたことがあったが、例えば建物を爆破するといった爆破予告のような相談はあるのか。

【警察】当署で相談として寄せられたものに爆破予告といった類のものは記憶にないが、男女間や知り合い間のトラブルで危害を加えられるかも

会 議
内 容

しれないという相談を受けることはある。

【警察】 今回の会議の趣旨は高齢ドライバーの方に自主返納を促すにはどうすればよいのかということではなく、年齢が高くなるほど、機能、反応が低下していくことに気付いていただくということが重要だと考えている。

また、会議の中でも横断歩道を渡らなければいけないという発言があったが、高齢の方の中には道路を早く横断しなければと思い横断歩道のない箇所を横断しようとする方もおられ、交通ルールの順守を求める教育も重要であると認識している。

高齢者の方には運動能力が低下していることに気付いていただくこと、年齢を問わず交通事故防止のためには交通ルールを順守することが重要であるという理解を深めていただく施策を交通課を中心に行ってまいりたい。

高齢者の方の交通事故を防止するための施策の一つとして、運転免許証の自主返納の促進があると思うが、会議の場でも発言があったとおり、車が必要不可欠な地域もあると思うので、高齢者の方が関連する事故を防止する施策として、一様に自主返納をお願いするという風には考えていない。

今後も、皆さんに説明し理解をしていただき、安全に車を運転していただく、街中を歩いていただくという生活を送っていただきたいと考えている。

西京区は観光地でもあり、他府県等部外からも高齢ドライバーも含めたくさんのお客が訪れるので、行政等関係機関とも連携し、広報啓発活動もしっかり行ってまいりたい。

皆さんの意見を署の運営にしっかり反映させていきたいと考えておりますので、引き続きご支援をお願いしたい。

6 事務連絡

令和5年度第4回西京警察署協議会は、令和6年2月6日（火）で日程調整を行う予定である。

以上

第3回京都府西京警察署協議会の開催状況

